

# 重厚ロボットの スペシャリスト

クランプ整備機



## たいゆう 大裕株式会社

### どこにもない機械を創造する

土木、鉄鋼、建設。この分野で必要不可欠なものひとつが「機械・ロボット」。人の力では、なし得ない仕事をしてくれる。これを開発しているのが大裕。力や速度が求められる重厚長大な産業機械分野で、類いまれなメカトロ技術を誇る。

作っているもの大半は、顧客毎にその都度開発する「一品一様」の機械。製造ライン、建設機械、土木ロボット等、世の中に存在しない、だが確実に必要とされるものを開発し、製造している。

同社は昭和37年、理工系大学の学生だった野村裕皓社長が興したベンチャー企業だった。「機械屋」として事業展開する中、機械工学と電子工学を融合した「メカトロ」技術を習熟。やがて鉄鋼メーカーや電機メーカーの製造ラインや建設機械の設計開発を手がけるまでに成長し、積み上げた技術は半世紀分。同社はこれらの実績と経験を基盤に、様々な分野の製品を開発

している。その中の一つとして約20年前に、建設分野で画期的なマシンを開発した。それが「仮設機材整備装置群」だ。現在では、30機種を超えるラインナップを保有し、大半の機種が特許登録等の知的財産権保全の手続きがなされているという。

### 生産技術とは 逆視点の開発仕様に挑む

建設現場で「足場」と呼ばれる仮設機材は、現場での工事が終わるたび、解体・メンテナンスされ、次の現場で再使用される。しかし、一口にメンテナンスといっても作業量は膨大。工事現場でこびりついたコンクリートを落とし、変形したものを修正し、部品の欠けがないか逐一チェック。これらを行わなければ、次の現場で安全性を確保した足場として使えないからだ。従来、多大なマンパワーをかけ、手作業でメンテナンスしていたが、これを機械化、自動化したのが同装置。コストと作業時間を大幅に削減し、作業効率を向上させた。

だが、開発はそう簡単ではなかった。なにしろ仮設機材には数百の種類があり、メーカーごとに形状が違う。これを一つの機械で整備するわけだから、それぞれの違いを加味した機械構造を考えなければならぬ。「建設現場のことも製造ラインのことも熟知している当社だから、開発できたのだと思います。同一規格品を製造する生産ライン開発のほうが、どれだけラクか（笑）。規格がバラバラなものを取扱う装置ですから、今までとは違った発想が必要とされました」と野村社長は語る。

### 現場の悩みを発想力で解決

長年メカトロを手がけてきた経験、ノウハウ、発想力を投入し「現場の『困った』を解決する機械を作るのが当社」だと野村社長。関西国際

空港や本四連絡橋の建設現場では、同社の鋼管切断設備が活躍した。海底深くに沈められた鋼管を切断する同社の技術がなければ、鋼管を用いた建築工法自体が成り立たなかつたといわれるほどだ。そのほか、高層ビル建設現場で欠かせない型枠一体式コンクリート打設マシン（ディスプレイエータ）も、昨今の超高層ビル建設の工期短縮に一役買っている。

現在は、大学と連携し新たな分野での技術開発も行っている。摂南大学との共同研究では、全く新しい摩擦圧接工法を開発中だともいう。

### 主な事業内容

整備・加工・製造  
機械の製造・切断力の製  
装置の製造・省力の製  
販売、請負、機械等  
産業機械  
製造・販売



野村裕皓さん  
代表取締役

### Company Profile

大裕株式会社

住所 / 〒572-0077  
大阪府寝屋川市点野4-11-7  
設立 / 昭和37年5月  
資本金 / 1,500万円  
従業員 / 35名（平成21年1月現在）  
TEL / 072-829-8101  
FAX / 072-829-8121

大阪  
20

<http://taiyu-corp.com/>